

R5年度 教職員の多忙化改善に向けた本校の取組！

山梨県教育委員会より、市町村教育委員会と各小中学校に多忙化改善に向けた組織体制づくりと改善計画の作成等について指導をいただいています。今年度、本校では、次のように組織と計画を策定して取り組んで参ります。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

【目的】

- ① 教職員の多忙化を改善することで、教職員が直接児童と関わる時間や教材研究等に充てる時間を増やし、教育活動の一層の充実を図る。
- ② 教職員の多忙化を改善し、教職員の心身の健康の維持改善を推進することで、教育活動の一層の改善を進める。



【組織】

- 名称 舞鶴小学校多忙化改善対策委員会
- 参加者 校長・教頭・教務主任、必要に応じて学年主任や分掌責任者が参加する。

【具体的な取組内容】

- ① 会議等の効率化
 - ・ 職員会議は資料をペーパレス化するとともに、原則1時間以内で終わるようにします。
 - ・ 全体で集まる終礼等の打合せを必要に応じて実施することとし、伝達事項はデータで共有するなど工夫します。
- ② 学校行事の見直しと改善
 - ・ 賞状伝達等をテレビ放送で行い、授業時間を確保します。
 - ・ 真に必要な活動は何かを考え、感染症等の予防対策をとりながら効果的・効率的な行事の在り方を探ります。(校外学習の精選・充実等)
- ③ 校内組織の見直し
 - ・ 校務分掌(研究主任や体育主任などの校内での役割)の適正化や軽減化を図り、できる限り主任と副主任を配置する複数分担制とします。
- ④ 業務の効率化
 - ・ 校内研究で学んだことを生かしてICT機器を有効活用し、子どもたちにわかりやすい授業を行います。
 - ・ 留守番電話の導入により時間外の業務の削減に努め、保護者や外部への連絡の効率化を図ります。
 - ・ 「校務支援システム」に出退勤時刻を記入するなどして、タイムマネジメント意識をもつようにします。
 - ・ 計画年休を実施し、個人で月に1回の「定時退庁日」を定めます。
- ⑤ 地域人材・外部人材の活用
 - ・ 学校運営協議会を活用し、地域や保護者の支援を得ながら豊かな教育活動を実現します。
 - ・ 今まで教員が行っていた業務の一部を、学習支援員やスクールサポートスタッフの支援を得ながら実施します。
- ⑥ 全体を通して
 - ・ 上記の取組を、PDCAサイクルで検証し、毎年実態に合った取組に改善していきます。